

表26 同一元種株の培養形態別運動型細胞出現率

元種株	初代		継代		再通気初代		再通気継代		保存	
	運動型平均出現率	事例数	運動型平均出現率	事例数	運動型平均出現率	事例数	運動型平均出現率	事例数	運動型平均出現率	事例数
ヒレB株	13.5%	1							2.2%	1
ヒレD株	28.4%	1	3.8%	1					2.3%	1
ヒレG株					34.5%	1	20.2%	1		
ヒレナシC株			3.1%	3	5.5%	2				
ヒレナシE株	1.6%	1	0.9%	1						

継代培養の出現率と差があり、ヒレB株、ヒレナシE株の初代培養、ヒレナシC株再通気初代培養より高かった。ヒレG株は、運動型細胞に変異し易く、その特徴が継代後も受け継がれたことが示唆された。同一株の培養形態においては、初代培養若しくは再通気初代培養が継代培養、再通気継代培養より高かった。

2) 試験 2 (培養日数)

図 23 に同一培養事例における培養日数の違いによる運動型細胞出現率を示した。7日と9日以降を比較した6事例(ヒレ3、6、ヒレナシ2、3、4、5)の内、5事例で7日が高く、9日と11日以降を比較した6事例(ヒレ3、4、6、ヒレナシ1、5、6)全事例で9日が高かった。10日と11日に差は無く(ヒレ5)、6日目までの出現率は、培養日数に比例して高まり、6日は7日より低い事が示唆された(ヒレ1、2)。

運動型細胞出現率が高くなるのは培養7~9日目であり、それ以降は、運動型細胞に変異し難くなる事が明らかになった。

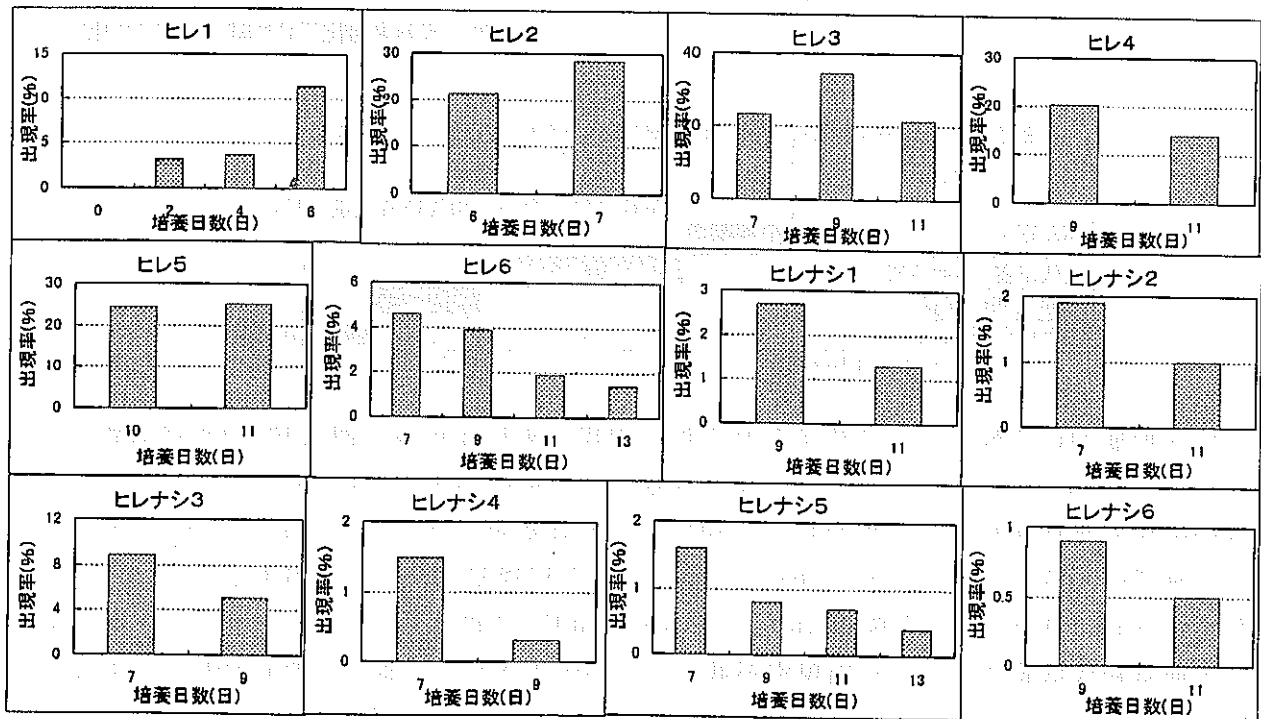


図23 培養日数の違いによる運動型細胞出現率